

## 尿沈渣中に針状と異なる青色結晶を認めた症例

◎芝田 陽香<sup>1)</sup>、伊藤 英史<sup>1)</sup>、吉田 光徳<sup>1)</sup>、磯部 勇太<sup>1)</sup>、西尾 祐貴<sup>1)</sup>、大嶋 剛史<sup>1)</sup>  
医療法人 豊田会 刈谷豊田総合病院<sup>1)</sup>

【はじめに】尿沈査中に認められる青色結晶は、便秘と細菌による尿路感染症を併発している場合に認められる症例が多い。青色結晶は、尿中インジカン由来のインジゴ(不溶性青色色素)であると考えられており、一般的に形状は針状を示す。インジゴの生成機序は、糞便中のトリプトファンが便秘により増殖した腸内細菌によってインドールに分解され、腸管から吸収された後、肝臓でインジカンとなり尿中に排泄される。その後、尿中の細菌によりインジカンからインジゴが生成される。今回、尿沈渣中に針状と異なる形状の青色結晶が出現したため報告する。

【症例】74歳女性。2024年2月、急性心筋梗塞の治療目的で入院。既往に癒着性腸閉塞があり、緩下剤(酸化マグネシウム)を内服している。

【入院時検査所見】尿定性検査 比重:1.008、pH:6.5、尿蛋白:-、尿糖:-、ケトン体:-、尿潜血:+-、ウロビリノゲン:+-、ビリルビン:-、白血球:1+

尿沈渣検査 赤血球:1未満/HPF、白血球:30~49/HPF、扁平上皮:5~9/HPF、尿路上皮:1未満/HPF、細菌:3+、蝶形の青色結晶を認めた。酸(酢酸、塩酸)、アルカリ(KOH)、加温のいずれにおいても結晶は不溶であった。

【考察】患者は既往に癒着性腸閉塞があり、緩下剤を内服している点と尿所見から、便秘と尿路感染症を併発していたと考えられる。本症例の結晶は成分分析の結果、同定には至らなかったが、患者背景および尿路感染症改善後の尿中には認められなかったことから、尿中インジカン由来であると推測した。

【結語】本症例より尿中インジカン由来の青色結晶は針状以外にも異なる形状の結晶が出現することが示唆された。また、青色結晶の正体を推測するうえで、便秘や尿路感染の有無等が参考になり得ると考える。

連絡先：0566-21-2450